



富士橋・親柱①

かけはし

第187号
2023年9月発行

発行：峡南教育事務所
教育支援スタッフ（地域教育担当）

南巨摩郡富士川町鵜沢771-2
TEL:0556-22-8154
FAX:0556-22-8144

HPではカラー版がご覧いただけます。

<https://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html>



富士川町役場

教育委員会は3Fです

目次：
令和5年度峡南地推協
塩島萬夫新会長あいさつ
1
峡南地域人権学習会
ご案内

2
赤沢宿重要伝統的
建造物群保存地区選定
三〇周年記念イベント
峡南地域
教育フォーラム開催
富士川町立図書館
『新規オープン』

3
異校種連携事業
身延山高校+睦合小学校
福祉学習(手話教室)
青洲高校音楽部
中学校訪問・合唱交流会
身延高校+身延中・南部中
中高連携防災セミナー

4
下山小学校
『大豆学習会』
早川北小学校
『心肺蘇生法』講習会
富士橋竣工記念
富士川町第5保育所
『お絵かき』
鵜沢中学校『鵜沢囃子』

令和五年度

峡南地域教育推進連絡協議会(地推協)

塩島 萬夫 新会長 あいさつ



塩島萬夫 地推協会長

平成一九・二〇年度、峡南教育事務所で地域教育支援スタッフとして、峡南地域教育推進連絡協議会(地推協)の事務局を担当していたことを思い起こします。それから五年後にその組織の会長に選任されたことに、不思議なめぐり合わせを感じずにはい

られません。地推協は、平成一〇年の中教審答申と同一二年の教育改革国民会議提案により、翌一三年にスタートした地方教育連携推進のための組織です。峡南地域では、平成一七年に正式に発足し、町教育委員会・小中学校・幼稚園・保育所(園)・高校・PTA・社会福祉関連機関など、各機関の子どもと地域教育に関わる二三団体の委員により構成された連絡協議会です。子どもたちの健やかな成長のために、家庭・学校・地域がそれぞれの役割と責任を果たしていくには、どのように協力し連携していくかという課題認識のもと、当時は、組織の立ち上げから間

もなかったことから、活動の方向性や具体的内容を探っていません。現在、全国的に家庭や地域を取り巻く環境は大きく変化し、私たちの暮らす峡南地域においても、様々な教育的な課題がより深刻な状況になってきているようにも思えます。「地域の子どもたちをどう育てていくか」を柱に、これから学習会や講演会を開催し、関係団体や地域住民への学習の機会を提供して参りたいと思います。また、地域における教育関係情報を共有し、相互の連携も引き続き図っていきたいと思います。

峡南地域 【人権講演会】 ご案内

『わたしたちにできること』

～すべてのセクシュアリティの人が生きやすい社会のために～

講師：一般社団法人にじーず 古堂 達也 氏

日時：11月17日(金) 14:20～

ZOOMによる オンライン開催

近年、“秋”を感じる期間が短くなってきているように感じます。何をしてもよい季節とされる秋は、『〇〇の秋』と言った表現がよくされます。皆さんは〇〇の部分に何が入りますか？私は、“食欲・スポーツ・読書”といった感じです。



赤沢宿重要伝統的
建造物群保存地区選定
三〇周年記念イベント

八月一〇日(木)、早川町赤沢宿が重要伝統的建造物群保存地区に選定されて三〇周年を迎えたことを記念し、様々なイベントが開催されました。開会式に引き続き行われた油障子作品解説では、身延高校を含む県内八つの高校美術部による作品紹介、日本画家の伊東正次氏・棚町宜弘氏による作品の紹介や、油障子に絵を描くことになった経緯などについての説明が行われました。また、文化庁文化財第二課長・田中禎彦氏による記念講演や、洋設計室代表・北川洋氏をコーディネーターとし、パネラーに、早川町長・辻一幸氏や町並



み保存会長・望月利和氏等を迎えてのパネルディスカッションが行われました。そして、メインイベントである、油障子ライトアップには、県内外から多くの方々が訪れ、その美しさに見とれていました。

翌、一日(金)には、青洲高校茶道部による納涼茶会、清水坊住職・内野光智氏による法話、絵師・映水氏による写仏会、三枝亭二郎氏による上方創作落語、赤沢宿案内人・望月敏明氏による赤沢宿の話、といったイベントが行われました。

※重要伝統的建造物群保存地区(重伝建)とは…歴史的な集落や古い町並みを残そうと、住民が国や自治体からの支援を受けながら保存に取り組んでいる地区。赤沢宿は、平成五年七月一日に指定されました。(令和四年五月現在、全国の一〇四市町村一二六地区が選定されています。)

※油障子とは…風雨を防ぐために油紙を貼った障子のこと。雨戸が整備される前に、赤沢で実際に使われていた。

峡南地域教育フォーラム
『教育DXの広がり』
デジタル時代に必要な資質・能力』
山梨大学 教育学部
准教授 三井 一希 氏

令和五年度峡南地域教育フォーラムが、八月二三日(水)、身延町総合文化会館において開催されました。講師の三井先生は、以前、山梨県の公立小学校教諭としての勤務経験があり、現在は山梨大学教育学部の准教授

を務めると同時に、文部科学省学校DX戦略アドバイザーやデジタル庁デジタル推進委員など多方面でご活躍されています。今回の講演では、日本の教育に関する現状やICT活用の必然性、予測困難な時代に必要な資質・能力等、様々な視点から教育DXに関する話題を提供してくださいました。数多くのデータや動画を盛り込んだ先生の話には、参加者は熱心に聞き入っていました。



※講演会の感想より
・今日の学校教育でICT教育の必要性について改めて理解が深められた。今後の児童生徒に必要な資質・能力として、「魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教える。」ということは同感です。
・子どもたちが、スマホやタブレットを使いやすい環境にある一方、情報収集能力とリテラシーをしっかりと身につけられないとトラブルに巻き込まれる。良い意味でデジタルには無限で多様な可能性を秘めている。一方、悪い可能性も無限であり、悪用されることも多い。学校・家庭・企業が一体となって子どもを守る手立てを進めることが必要であると感じた。

※教育DX(デジタルトランスフォーメーション)とは…デジタル技術を活用した教育モデルの改革を指し、デジタル機器やシステムを導入するだけでなく、技術を活かして新たな教育体制や指導モデルの構築に取り組むことです。

「富士川町立図書館“新規オープン”

七月一五日(土)に、富士川町立図書館が新規オープンしました。同図書館は、シビックコア地区整備計画として、鯉沢地区中心市街地の賑わい及び、交流の場の創出のため、国の五官署を集約した合同庁舎との合築による施設となっています。多くのの方々のご利用を、お待ちしております。



富士川地方合同庁舎

- ※場所
富士川町鯉沢一七六〇一
富士川地方合同庁舎一階
- ※開館時間
・火曜日～金曜日 九:三〇～一九:〇〇
・土日祝日 九:三〇～一七:〇〇
- ※エリア分け
・児童書(約一万四千冊)コーナー
「ゆず」のロゴ(黄色)
・一般書(約三万一千冊)コーナー
「さくら」のロゴ(ピンク色)
・地域資料(約二千七百冊)コーナー
「舟」のロゴ(青色)
- ※施設の特徴
・無料Wi-Fi環境
・学習席(七席)・閲覧席(十四席)
・授乳室・こどもトイレ
・冷暖房完備のおはなしコーナー
・子ども用閲覧席
・自動貸出機・書籍除菌機
・ブラウジングコーナー など

身延山高校+睦合小学校 福祉学習(手話教室)

六月十五日(木)、睦合小学校では、四年生一三名が参加して『総合的な学習の時間』の福祉学習の一環として、昨年度に引き続き身延山高校の【手話コミュニケーション部】の生徒八名を講師に迎え、手話教室が行われました。この手話教室は、身延山高校の取り組みとして様々な学校で行われています。(なお、手話教室については、すべて身延山高校の生徒が考えた内容で実施されました。)新年度、新たな部員を迎えて初めての実施ということもあり、緊張した様子でスタートしました。

まずは、高校生が手話を交えながら自己紹介を行い、続いて手話クイズが行われました。『ありがとう』『かわいー』『天才』おはよう』といった手話をクイズ形式で覚えていきました。次に、小学生が自分の名前を手話で表現する練習を三班に分かれて行いました。最後に鬼滅の刃の主題歌『炎(ほむら)』の歌詞を手話で表現する練習をしました。



一時間半ほどの時間でしたが、終始和やかな雰囲気が進められ、両校の児童・生徒にとって有意義な時間を過ごすことができました。

睦合小学校の児童の感想

やさしく説明してくれて、とてもわかりやすかった。

手話で歌を歌えると思わなかった。とても楽しくできました。

幼稚園の時に自分の名前を手話で教えてもらったけれど、忘れてしまっていたので思い出せて良かった。

身延山高校の生徒の感想

初めてで緊張したが、みんなが話をしっかり聞いてくれて、覚えるのも早かった。

今日の反省を生かし、次回以降の手話教室に生かしていきたい。

みんな手話は難しいと思っていると思うけど、この活動を通して、地域に広げていきたい。

※手話教室は、校種を問わず開催できますので、興味がありましたら、身延山高校までお問い合わせください。

青洲高校音楽部 中学校訪問・合唱交流会

青洲高校音楽部は、県内の多くの中学校を訪問し、合唱交流を行っています。七月上旬に、六郷中学校と、三珠中学校をそれぞれ訪問し交流を行いました。まず初めに、音楽部が『歌をあなたに』『虹』などの合唱を六曲披露しました。コロナの影響もあり、全部員での参加はできませんでしたが、過去、何度も全国大会に出場している歌声は迫力が

あり、圧倒的なパフォーマンスを披露してくれました。その後、各中学校の全校生徒と合同で合唱練習を行いました。

青洲高校の生徒の感想

一年生が入部してから初めての交流会ということで緊張感がありました。コロナが増加傾向にあり、マスクをしながらの発表になってしまい、声を通りにくくなるだけでなく、顔の表情も伝わりにくくなってしまう少し残念でした。これからの活動においても、歌詞の意味を大切に、声だけでなく表情も豊かにし、歌の良さを伝えていきたいです。

六郷中学校の生徒の感想

一緒に歌うことができて、声の出し方の違いなどを感じるのがとても貴重な体験になりました。

綺麗な歌声を聞いて、心地よい気持ちになりました。今後の合唱をする際に、

どのようにすれば良いかをみんな考えて、より良い合唱を目指していきたいです。

三珠中学校の生徒の感想

一人では心細く自信を持って歌うことができませんでしたが、迫力のある声で、高校生が後押し、支えてくれたので自信を持って歌うことができました。

薬袋先生の「間違ってもいいから、自分の気持ちを堂々と歌うことが大切」という言葉が印象的でした。

葉が印象的でした。



身延高校+身延中学校・南部中学校 中高連携防災セミナー

八月七日(月)、身延高校において、身延高校・身延中学校・南部中学校から計一九名の生徒が参加し、「中高一貫教育事業」の一つである『防災セミナー』が、四年ぶりに開催されました。このセミナーでは、『地震等発生時において、地域のために率先して働くことができ、所属校においてはリーダーとなって防災活動を推進していく意欲や知識を持った人材を地域や町、県と協力して育成すること』を目的とし、身延町役場防災交通課・山梨県立防災安全センターより三名の講師を迎えて実施されました。

まず初めに、防災に関する講義『災害について考える!』を聞いた後、ワークシヨップとして煙体験・起震車体験を行いました。講義では、重要な部分はしっかりとメモを取り、各体験では、注意点をお互いに確認しながら取り組むなど、生徒たちの真剣な姿が印象的でした。

参加した生徒からは、『頭と体で防災について学ぶことができた。災害によって避難場所が違うことなどを知らなかった。今日学んだことを、家族とも共有し、災害に備えたい。』といった感想を聞くことができました。



下山小学校『大豆学習会』

身延町では、「まぼろしの大豆」とも言われている、「あけぼの大豆」振興の一環として、六年前から町内の小学校三年生を対象に「あけぼの大豆の案内人」である小林あゆみさん（身延町在住）が中心となって「大豆学習会」を実施しています。（下山小学校は、昨年度から県の『やまなし食農教育菜園教育モデル実践事業』とタイアップして実施しています。）今回は三年生一八名が参加して行われました。まず、身延町役場産業課農林担当の渡辺さんより、「あけぼの大豆が『地理的表示（GI）保護制度』に令和四年三月から登録されているブランド品であることの紹介がされた後、小林さんによる大豆学習会が始まりました。大豆に関する様々な知識を学んだところで、みのワンが登場し、あけぼの大豆の特徴や栽培の仕方などに関する〇×クイズを行いました。最後の問題は、「大豆はどんなものに変化する？」というものでしたが、事前学習の成果もあり、豆腐・きな粉・味噌等の回答に加え、地元の特産品である「ゆば」と答える児童もいました。教室での学習を終えた後は、学校に隣接する小林さんの畑に移動し、種まきを実施しました。種をまく前の準備として、児童一人



慎重に一步步!



みのワン登場!

〇×クイズ!!

一人が耕運機を使って5mほど畑を耕す体験も行われました。初めて扱う機械に腰が引け気味でしたが、渡辺さん・小林さんに補助していただきながら、一步一步慎重に耕していききました。そして、最後に棒を使って約四五cmの間隔を測りながら一人一〇粒のあけぼの大豆の種をまいていきました。参加した児童からは、「今は便利な道具があるが、昔の人はこんな大変な作業をしていたことを知ることができた。早く大きくなってほしい。〇×クイズで間違えたところもあったけど、しっかりと勉強できた。今後もし話や観察をしながらしっかりと育てていきたい。」といった感想を聞くことができました。

早川北小学校『心肺蘇生法』講習会

早川北小学校では、全校児童一四名・保護者一三名が参加し、日本赤十字社山梨県支部の鈴木さんを講師に迎え、昨年に引き続き心肺蘇生法の講習会が開催されました。学びを深めるために「心肺蘇生法練習人形」が一人に一台用意され、より良い条件で実施されました。始めに横澤校長が、「救急法はとても大切です。夏休み中の海や川での遊び、体育のプールでの授業の際など、万が一の時に備えて、しっかりと知識や技術を身につけてください。」と挨拶をし、講習会がスタートしました。講師の鈴木さんより、まず、心肺蘇



早く大きくな〜れ!

生を行う際にコロナ感染を防ぐ必要があるため、蘇生法の変更点の説明を受けました。その後、胸骨圧迫（心臓マッサージ）・人工呼吸・AEDの使用法など、様々な知識や技術について説明・実演が行われ、参加者全員で実技演習が行われました。特に胸骨圧迫では、「強く・早く・絶え間なく」行うことや、複数人で協力して行う際の注意点・連携の仕方、記録を取っておくことの大切さ、といったことも学びました。

親子で注意点を確認しながら集中して実技演習を行い、疑問に感じたことは積極的に質問するなど、意欲的に取り組む姿が印象的でした。保護者代表からは、「万が一の際には、慌てず対処できるように心掛けたい。身近な所にあるAEDの場所を確認しておきたいと思いました。」と感想が述べられました。また、児童からは、「初めてだったけれど、家族四人で参加でき、みんなで胸骨圧迫の仕方や人工呼吸など、新しいことを学べて楽しかった。」「何度か参加しているけれど、振り返りができて良かった。今までは親子別々での講習だったけれど、今回は一緒にできたので、救急蘇生が必要な場面に遭遇したら、親子で協力して実施できると思います。」といった感想を聞くことができました。



親子で協力!!



説明を、しっかり聞く!

富士橋竣工記念

富士川町第五保育所『お絵かき』
鵜沢中学校 『鵜沢囃子』披露

八月二〇日（日）に、市川三郷富士川線富士橋の竣工を記念して、様々なイベントが開催されました。まず初めに、富士川町第五保育所の園児・保護者による、橋への『お絵かき』が行われた後、鵜沢中学校一・二年生による『鵜沢囃子』が披露されました。

鵜沢中学校では、総合的な学習の時間を通じて、鵜沢町の伝統文化である、『鵜沢囃子』について学ぶ機会を設けており、様々な機会に披露されています。参加した生徒からは、「新しい富士橋の竣工式に参加できて良い体験となりました。」「緊張したけれど、みんなでそろえられるように注意しました。練習の成果が出せたので一〇〇点です。」といった感想を聞くことができました。

なお、富士橋の利用につきましては、八月三〇日（水）から、富士川町駅前通方面への通行のみ開始されており、今後、九月下旬には鵜沢方面へも通行可能となります。歩道の共用開始は一月上旬を予定しています。



鵜沢中学校『鵜沢囃子』披露



上手に描けました!